

# 活動報告書

報告者氏名： 清水 浩貴

所属： 福生市立福生第二中学校

記録日： 2015年2月23日

## 【対象児の情報】

### ・ 学年

中学3年生の男子

### ・ 障害名

特になし(学習に対する困難)

### ・ 障害と困難の内容

知的な遅れはないが、学習面に関して課題を抱えている。

情報の入力に関して困難を示している。集中力の持続が苦手であり、全体指導の中では聞き取ることが難しく何をしたらいいかわからず座っているか、寝ているだけになってしまう。

自己管理が苦手な規則正しい生活習慣を送ることが苦手である。習慣的に家庭学習することも苦手であり、宿題も行える時と行えない時がある。

## 【活動目的】

### ・ 当初のねらい

先行学習を行うことで見通しを持って学習に向かえるようにする。

スケジュールを共有して家庭でも課題に取り組む習慣を身につける。

### ・ 実施期間

平成26年4月～平成27年2月

### ・ 実施者

清水 浩貴

### ・ 実施者と対象児の関係

通級指導学級担任

通級にて週4時間(国語・数学・英語・自立活動)の授業を行う。

## 【活動内容と対象児の変化】

### ・ 対象児の事前の状況

国語：音読をすると漢字が分からずつかえてしまうことが多い。

長文を読むことが苦手である。

数学：基本的な問題の解き方がわかっていないため、あまり深く考えずに早く終わらせようとして、でたらめな解法で問題を解いてしまう。

英語：単語の調べ方がわからないことで時間がかかってしまい、意欲が低下している。

自立活動：中間、期末テストにおける取組みを計画的に行うことが苦手である。

受験における先の見通しが立てづらい。

・活動の具体的内容

国語：「ボイスオブデイズ」読むことの困難さを軽減する。 

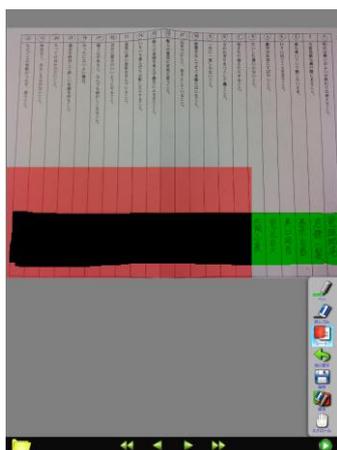
→先行学習として新しい単元の読みを繰り返し行い、読めない漢字にはルビをふる。

→音声を聞くことで負担を軽減する。

「じしょ君」わからない言葉の意味調べをする。



「俺の赤シート」今までの学ばなければいけなかったことを補うことが難しく、小テストなど短いスパンでの学習は取り組むことができていることから、すぐに成果の出やすい漢字テストにおいて、出る問題を赤シートで隠して覚える。



俺の赤シート



じしょ君

数学：「Educreations Interactive Whiteboard」次回の授業で取り組む問題を描画しやすく、説明を動画で残すこともできるため、Educreations を使って先行学習を行う。録画した動画を授業の予習として役立てる。



Educreations Interactive Whiteboard

英語：「Weblio 英語翻訳」単語の意味調べ、教科書の本文の翻訳をする。



Weblio 英語翻訳 (本文役)



Weblio 英語翻訳 (英単語)

自立活動：「高校へ行こう」、「yahoo 安心アプリ」志望校の検索を行う。



「urecy」SNSであり、グループ内でスケジュールの共有ができるため、一週間の予定を一緒にスケジュールリングすることができる。リアルタイムで連絡が取れるため、次の日に重要事項がある場合、タイムラインでフォローをする。



タイムライン



予定の登録



カレンダーの共有

・対象児の事後の変化

国語：今まではわからない漢字があると諦めてしまいそのままにしてきたが、iPadを活用することで繰り返し再生をして漢字が読めるようになる努力をするようになった。漢字テストで高得点を取った生徒が挙手をする場面において、手を挙げる機会が増え、友達に「A君が手を挙げている」と言われると嬉し恥ずかしそうにしていた。

右の写真はデジラーを使用している写真であり、読めない漢字を何度も何度も繰り返し再生をして聞き取る努力をしていた。また、聞き取れた漢字を教科書に自らルビを振って読めるようになる努力をしていた。



数学：「Educreations Interactive Whiteboard」を用いて先行学習を行った。このアプリはホワイトボードとして使用しながら写真や画像を貼り付けて説明がしやすく、説明している動画を残すこともできる。今までは全くわからない問題ばかりで意欲がなくなっていたので、知っている問題があれば通常級での取り組み方も変わると思い、そこで一緒に行った先行学習を、一問スクリーンショットで残しておき通常級の授業前に予習をするようにした。2学期の中間テストの答案が返却され、感想を聞いてみると、今までは全然わからなかったと言っていたのが計算式を書き、「解き方がわかっていたのに計算を間違えてしまった」というところまで進歩した。これまでの積み重ねがない分、繰り返り上がりやプラスマイナスの符号などを間違え不正解になっていたが、前向きな発言がA君の口から出るようになった。

### 中間テスト後の感想

今までは...



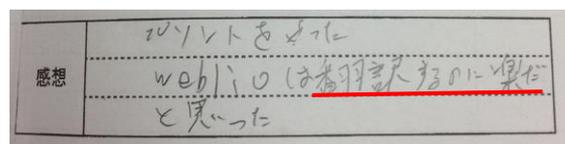
「わからなかった。」

今回は...



「解き方がわかっていたのに計算を間違えた!!」

英語：教科書の本文を訳そうにも単語の調べ方がわからず時間がかかってしまし意欲が低下しまうため、インターネット上の「Weblio英語翻訳」を使用して単語の意味調べとともに本文の翻訳を行った。iPadを活用する前は「わからない単語があったら自分で調べてごらん」というとビンゴ帳に無作為に載っている単語の中から探そうとしていた。中々探している単語が見つからず意欲が低下していた。iPadを活用することにより入力すればすぐに必要な情報を得られることから時間が短縮され、本人の負担も軽減されて次の単元にまで進むことができるようになった。右上の写真は英語の授業後の感想文になり、赤線部分の「翻訳するのが楽だと思った」と取り組みに対して前向きな発言が見られた。



通級授業終了時の感想文

## 【報告者の気づきとエビデンス】

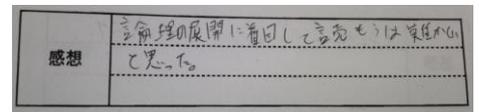
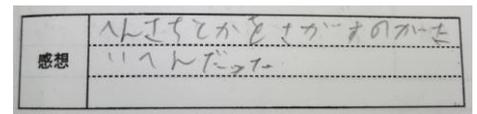
### ・主観的気づき

今までは「面倒臭い」と言ったり、とってつけたような言い訳をしたり、取り組みに対して否定的な発言が多かったのが、この活動を始めてから「これなら出来そう、やってみたい」など肯定的な発言が増えるようになった。

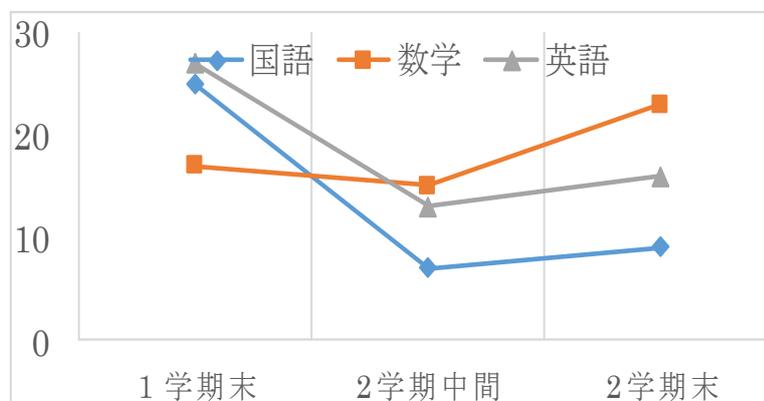
また、入試に向けて評定を上げるため、2学期の期末テスト1週間前になると「このままではいけない」と何とかしようとする発言や保護者に「1週間前からはちゃんとやる」といった宣言があった。家ではゲームやスマートホンや家族の声など刺激になってしまうものが多く、勉強に集中できないことから、自宅に帰ると着替えて祖母の家に行き、そこで学習するようになった。そして、そのまま、祖母宅に泊まって朝は自宅によって制服に着替えてから登校する生活に自ら変更した。そうした生活の変化から試験1週間前の遅刻回数は0回に減少した。そして保護者面談では母から「やっとやるきになってくれた」という話を聞くことが出来た。他の生徒と比べてしまうと「今更頑張っているのか、1週間前からしか取り組まないのか」と思ってしまう部分もあるが、今までA君を見てきたことを振り返ると、前向きな発言が自分から出てきたことが目まぐるしい変化であると感じている。

### ・エビデンス（具体的数値など）

通級の授業の終わりに毎時間書いている感想文で漢字の使用数の変化を比較してみたところ、活用前は漢字の使用数が本来年齢で使用する漢字が6個中0個や5個中3個といった状態であった。特に「難しい」など画数の多い漢字に関してはひらがなで書くことが多くあった。しかし、12月以降になって年齢で漢字を使うべきところは9個中9個や11個中10個など漢字で書くことが多く、変化がみられるようになった。



中間・期末テストの結果として具体的な数値はまだ見られていないが学習意欲が向上してきているため、今後の成長に期待している。



中学3年時試験結果(100点満点中)

・その他エピソード（画像などを含めて）

4月、5月の取り組み前では「テストを受けないと成績が悪くなる」、「毎日遅刻していると推薦がもらえない」などこちらの願いから「何々しないようになってしまうよ」といってもあまり意味を感じておらず困っていなかった。しかし、わかることが増えてきたことからテストを受けるようになり、遅刻が多かったのも週1、2回に減ってきた。自信もやる気もなかったところから前向きに取り組めるようになった。

また、このプロジェクトを振り返ると、最初は「iPadってどうやって使えばいいの?」、「特別支援ってどうすればいいの?」、「そもそも教員としてどうすればいいの?」と自分自身わからないことばかりであった。そうした中で魔法のワンドプロジェクトに参加してA君の大きな成長に携わることができ、なぜ成長できたのかと考えるようになった。最初は私が「こうして欲しい」、「こうであるべきだ」と自分の理想としているA君に近づけたいという思いから「取り組ませる指導」をしていた。そこで、その支援は本当にあったのか? サボっているわけではなく、本当は取り組みたいのに取り組み方がわからないだけではないのか? と考えるようになった。この考えの変化により、支える指導へと変わっていき、A君が自ら取り組むようになってきたのかと思った。A君は生徒として、私は教師としてこの研究のテーマでもある『自分にだってできる』と一緒に学ぶことができた。